YWVOB 会 会報 No.23

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB 会

2003 年 3 月 30 日発行

～ 目次 ～

1. 屋根張替えプロジェクト＆募金について……1
2. YWV最前線……2
3. 会員便り……5
4. 苗名小屋……13
5. 第７回 OB 山行、第 49 回シニア月例山行のお知らせ.17
6. 総務委員会からのお知らせ……18

1. 屋根張替えプロジェクト＆募金について

プロジェクトＹ に篤いご支援を ～なえな小屋屋根葺替事業～

6 期 菅谷光雄

小屋の悲鳴が聞こえる

なえな小屋の悲痛な叫びは聞こえましたか！会報 21 号で笹倉さん（30 期･前 OB 小屋委員長）が報告されました。その後も雨漏りがひどく小屋を着実に腐食させています。雨漏りによる腐食は、DIY プロジェクトの成果も帳消しにしかねません。もはや限界です。そして屋根葺き替え事業は昨年の総会で OB 役員会・小屋委員会に委任されました（会報 22 号既報）。資金的には先の見積もりに予備費 20 万を加えた 150 万円、実施時期は雪の前 10 月迄に工事完了が必修、すると工事発注が８月中旬迄となります。細部は業者発注前に、専門的技術アドバイスを頂いて決定しなければなりません。一方、会報 21 号での呼びかけ以来「なえな小屋は私たちの心のふるさと、どんな立派な小屋を建てても、なえな小屋の代わりにはなりません」等、小屋再生の要望が沢山寄せられています。現役諸君からも OB 会の支援を強く要請されております。資金調達しながらの現地準備という難しい管理を短期にやり遂げねばなりません。役員会では、もはや猶予不可という認識の下、短期決行・本年事業実施完了を決断し、以下皆様の篤いご支援をお願いいたす事に致しました。

プロジェクトＹ 活動開始

現地作業は OB 小屋委員会（後藤委員長・39 期）主体に推進し、3/17 の役員会で、鈴木さん（14 期･現地小屋委員）中心に現地準備作業着手を決定し快諾頂きました。更に小口さん（14 期）･池原さん(7 期)･鳥井さん(21 期)･田中さん(34 期)･笹倉さん(30 期)･親跡さん(34 期)ら多くの方々のご協力も頂く事になります。又、資金調達との密接な連携が必要ですから、役員会が全体の責任を持ち、屋根葺き替え事業全体を**プロジェクトＹ**（yane）として総括推進いたします。

（プロジェクトＹ　全体日程計画表）

３月　　４月　　５月　　８月　　10月

現地作業　粗見積→ 現地見積／技術資料　業者選定　工事発注→工事→完了

↓　　↓　↑　↓　↑　8/中旬　↓

中間検討会（役員会）　概要決定（役員会）発注決定会（役員会）　↓

4/20　↑　↑　5/末　↓↑　11月8･9日

資金調達　資金カンパ大キャンペーン　資金フォロー　工事完成記念・なえな総会

4～5月

Ｙプロ　カンパ大キャンペーン

本事業の成否は短期資金調達にかかっておりますので、一大キャンペーンを展開します。

Ｙプロ　カンパ大キャンペーン概要

カンパ目標金額　１５０万円以上

期間　平成１５年４月～５月３１日

カンパ単位　１口５千円、１口以上制限無し

このキャンペーンは、役員会主要メンバーが推進役となり、全期にわたる期幹事の皆様の協力を得て、二ヶ月で目標必達を図るものです。どなたでもカンパして頂けるよう、一口５千円としました。葺き替え用鋼鈑１㎡弱に当たります。中堅ＯＢの皆様は２口とか、シニアクラスは４口、積年の小屋ご無沙汰を一気に解消したいという方は 10 口等々、篤いご支援を期待しております。

小屋建設 35 周年・プロジェクトＹ完成記念　ＯＢ総会

プロジェクトｙが完成しますと、DIY プロジェクトと相俟って、35 年目にして、素朴な味わいを保ちつつ最高に快適な「なえな小屋」が完成いたします。そこで、今年の OB 総会は妙高で開催する事になりました。また、総会に併せて、小屋で各期同期会を開催しませんか。特に日頃多忙の十期代、二十期代の皆さん、あなた方の思い出がそのままギッシリと詰まった小屋で旧交を温めませんか。同期会開催にあたっては、役員会も出来るだけの便宜を取り図ります（例えば、総会ご案内 OB 会報 24 号に各同期会を告知する等）。まずは声をあげて下さい。小屋は昔にも増して、皆さんを暖かく包み込んでくれるでしょう。

2.　YWV最前線

４６期の素顔～ワンゲルでの１年を振り返りつつ～

４６期主将　**塩野貴之**(教育人間科学部地球環境課程)

文科系サークル棟２階、北西側に現在の部室はある。同室から社会科学研究会が抜け、釣友会が去った今、大部屋、畳部屋、装備部屋、荷物部屋を８人の部員で占有しているのはいささか気が引ける。しかし雑然としたこの部室が、とても落ち着ける空間であるのも事実だ。軽音楽部が向かいの部室で爆音を発していない今の静かな部室で、一人この文章を書きながら、来年度はこの部屋をさらに活気付けなければと思う。

この部室にすっかりなじんだが、初めて足を踏み入れた時からまだ一年も経っていないとは、不思議な気

分である。では夕日の差し込む 2 月の部室でしばし、回想をまじえ、独断と偏見が多分に含まれている危険性があるが 46 期の素顔を記していく事にしよう。

46 期 5 人の中で初めに部室を訪れたのが**宮木英彦**君(経営学部会計情報)であった。彼は高校時代、山岳部に所属し山の経験は豊富だ。また彼は演劇の才能を持っており、国大の劇団「三日月座」に所属している。というより、今の彼の本職は「三日月座」で、現在ワンゲルは休部中なのだ。しかし彼の演技力は一級品で、一年生で主役を張るほどである。今後の宮木君の活躍に期待したい。

次に部室に踏み入れたのが僕である。僕は高校時代陸上部であったが、日々の生活に疲れ、一人で町の格好のまま山へ行き始めた。浪人中も頻繁に独りで人のいない山に出かけ、山と会話して慰めてもらっていた。ワンゲル入部以前 17 回の山行ほぼ全てが単独行で、ワンゲルでの山登りとかけ離れた登り方をしていたため、ワンゲル入部以後、諸先輩方に迷惑をかけたのも事実であるが。そして僕は計画を立てることがとにかく好きである。アルペンガイド等と地形図を眺めているだけで、1 時間半の授業が終わってしまうこともある。これは小中学生の頃、時刻表を肌身放さず携えていたことのなごりであろう。現在は鞄の中には常に地形図と山岳小説が入っている。山に行くたびに山に魅せられ、山に没頭しつつあるのが今の僕の現状である。

3 番目に部室の戸をたたいたのが、46 期が誇るべき美男子、**Karagits Andras** (経済学部国際経済 2 年)である。本名は呼びづらいので、皆はアンディと呼ぶ。Andy と呼ぶ人もいる。ハンガリーからの留学生であるアンディは、１９０センチを越える長身に青い目、甘いマスクに優しい性格、非の打ち所のない好青年であるが素直すぎる事が玉に傷とも言える。日本に来た理由は奨学金がもらえたから、ワンゲルに入った理由はハンガリーに山という山はないが、偶然サークル棟に来てワンゲルを見つけ、何となく興味をもったからだと言う。動機はともかく 46 期一の体力を持ち、その長い足で急勾配を駆け登っていく。また生のジャガイモとひまわりの種を好んで食べるという不思議な面も持っている。

5 月に入って現れたのが、現在、副主将で小屋委員長の**佐久間大策**(工学部生産工)である。長所は毛が濃い所、短所は毛が縮れている所と言うが、それは身体的特徴である。確かにひげの延びるスピードは僕の１０倍以上だ。しかし、佐久間君は皆に可愛がられる愛嬌を持ち、その大きな体で山を登る姿やスキーで直下降する姿は実に愛くるしい。徳島市の名山である眉山を、120 キロもの体重を落とすために毎日のように登っているうちに山に興味を持ったと言い、しばしば望郷のまなざしで釣りに川遊びに夢中になった徳島時代の素晴らしさを語ってくれる。また料理にこだわり、山でのメニューを一度自宅で作ってから決めるという気合の入れようである。夏合宿では釣橋の上で昼寝をしたり、ラジウスの暴発で前髪を燃やしたりと話題を提供してくれた。

46 期でこの方を忘れてはならない。10 月に中央アルプスへの「リー養合宿」に出発する日、食料分担で慌ただしい部室を一瞬で静めたのが、**肥塚愛**さん(経済学部国際経済)の登場であった。実に数年ぶりに女性部員が誕生した。某有名外大を中退してきた肥塚さんはとにかく活動的で、記すに恐れ多い経歴の持ち主である。今年の夏からはドイツに交換留学に旅立たれる。高校でも山岳部に所属していたらしく、山での強さ、精神的強さも持ち合わせている。そして現在の 46 期を一手にまとめていると言っても過言ではない。

山での皆の行動を簡略化すれば、僕が少々危険なことに突っ込んでいき、それを佐久間君がなだめて制御し、肥塚さんの一声で最終的な決断が成され、それをアンディが興味深げに見ているという図式が成り立つであろう。年齢が全員異なり、趣味も性格も全く違う現執行部はこうしてバランスがとられているのである。

47 期の獲得に向けては、ビラ、ポスター、垂れ幕、写真等持てる力を全投入し新部員の獲得に望むつもりである。個人的な手ごたえとして、僕はあらゆる所でワンゲルの宣伝活動をしているが、多くの人が本当に多くの人が興味を示してくれる。この感じから言えば現

在のワンゲルが４、50 人いてもなんら不思議ではない。需要が多い事は確実である。ここに高らかに宣言をしてしまおう。４６期は新たなワンゲル伝説を築き上げる覚悟で、Y.W.V 現役の再興を目指します。　　さて、すっかり暗くなったので千葉まで帰ろう。（部室にて）

４４期の素顔～現役引退にあたり～

４４期主将　**志賀　圭**（経済学部経済システム学科）

44 期の部員は、野島、杉浦、そして私の 3 人である。本来ならば、ここに野口もいたはずであるが、彼は諸事情によりワンゲルを去ることとなってしまいました。執行部発足当時は、45 期不在という緊急事態でワンゲルの火が消えそうな状況でした。まずは、何より新入生の獲得が急務でした。しかし、前年度は確かに勧誘に失敗したとはいうものの、あまりの手応えの無さに世の移り変わりを感じていたのも事実でした。野島、そして杉浦も何かしら今までの人生の中で山に関わってきた人間でした。私も高校時代は山岳部でした。実際問題として、私は山に登りたいという人間を友人達の中で見かけたことは、ほとんどありませんでした。

新入部員のいない一年というのは、本当に戦いの一年でした。特に 43 期の方々から追い出しコンパで執行部を引き継いでから、4 月の新入生勧誘の時期までは、例えるなら氷河期のような感じでした。部室はいつ行っても、人がいなく寒々としていました。44 期も、それなりに忙しい人間なので、なかなか集まることも出来ませんでした。そんな中、新入生勧誘に向けて、そして活動の火を消さないためにも、まめにメールを使って情報交換をし、構想を練ってきました。

具体的な方針としては、勧誘を活発にすること、そしてワンゲル自体の活動を活発にすることの二点でした。勧誘についてはビラをカラーにすること、そして部室に人を常駐させること、また女性勧誘のために 34 期の小野さんを呼んでビラまきをお願いすることにしました。小野さんに来ていただいたことは本当にありがたかったです。そして、ワンゲル活動については、具体的な年間予定表を作り、それに基づいて活動を行っていくことに決めました。今までは、直前になってから行き先や日程を決めていました。そのため、予定を空けるのが辛いこともあり、大変でした。それに加えて、これでは新入生にとって活動をしているのかという不安を与えてしまう恐れがありました。最近はどこのサークル、運動部でも人数の減少に泣いています。そのような団体のパターンとしては、人数が減るにつれて活動も衰退して行き消滅していくというものも多いです。私は、そのようなワンゲルにはしたくないと固く決めていました。その逆で、近年、人数がどんどん増えているサークルもあります。それは、ほとんど活動といった活動もせずに、たまに集まって飲み会をしたり、みんなで遊びに行ったりというような、いわゆるオールラウンド・サークルという部類のものです。これは、近年の大学生の嗜好を見事に現したもので、まとまりの無い、気ままな集団です。そういうスタイルへの変更も、我々は拒みました。

勧誘の成果もあって、何とか塩野、佐久間、宮木という 3 人の部員を獲得することが出来ました。また、私が、ふと声をかけた留学生の Andy が入ってくれたことも嬉しい出来事でした。ただ、やはり女性部員獲得は無理でした。それからは、年度始めに作った予定表に従って、山に行きました。月に一回以上は活動の機会を持ち、例年に無く活発に活動を行ったと感じています。46 期には、少しでも色々なことを覚えてもらえるように、早いうちから、ある程度のことを任せてやってきました。彼らには気の毒だと感じていましたが、2 年目から執行部を任せなければいけない彼らには、少しでも経験を積んでもらいたいというのが正直な気持ちでした。

そして、秋がやってきた頃、山行の準備をしていると、一人の女性が部室に現れました。それが今ではすっかりと皆様の間では有名になってしまった肥塚です。彼女が部室へ来たときのことは鮮明に覚えています。彼女は少し変わった経歴の持ち主ですが、高校時代は山岳部と言うではないですか。ここで逃す手は無いと思い、まずは部室に置いてあった山の写真を見せました。そして、時間が余ったので、仕方なく私が一人でふらふらとアジアを旅したときの写真を見せ、色々な話をして、作っておいた予定表を渡し、帰り際に部室

の鍵まで渡しました。その甲斐もあって、今ではすっかりと溶け込み、46 期の中でも一目置かれる存在となっています。

今、振り返ってみると本当にあっという間の一年間でした。44 期の執行部が 46 期と入れ替わるときに野島、杉浦とお疲れ様と声を掛け合ったことを思い出します。まさに、その言葉が 44 期の一年を表していました。大したことはしていないかもしれませんが、良くやったと感じています。まだまだ、完全に現役を引退するまでには時間がありますが、今は肩の荷がどっと降りたというのが本音です。これからも、多くの先輩方が、我々にして下さったように、46 期や今年入って来るであろう新入部員達の裏方にまわってサポートしていきたいと思っています。

46 期の部員達は、それぞれに味があり、魅力のある人たちです。きっと面白いワンゲルになっていくと思います。彼らは実質 2 年間執行部を務めることとなります。今後の彼らの活躍に期待したいものです。

3. 会員便り

故三浦正継君を偲んで

９期代表　日渡松男

昨年の１１月初めに、突然奥さんの英子さんから正継君が「肺ガン」で愛知県立ガンセンターに入院しているとの連絡を貰いました。翌日急いで病院にお伺いしたところ、症状は持ち直した様で元気な姿を見て一安心し、冗談も言って笑ったりして別れました。その後同期の仲間がメールや手紙で励ましていました。痛み止めのモルヒネを常時注入している事や、英子さんからの急な連絡とで楽観を許す状況でないとは覚悟していたのですが、約２週間後の２１日に亡くなりました。もう一・二度は会えるかと思っていたのですが、全くガックリしてしまいました。昨夏、上原君と二人で北穂高岳～槍ヶ岳縦走し、北穂高岳頂上から撮った「キレットと槍ヶ岳」の写真を持っていったら喜んでくれ、奥さんがお棺に入れてくれました。

故三浦正継君

彼は学生時代から冬山に憧れていて、先輩達とこっそり冬山入門訓練を行っていた様で、その際同期の山縣君や木下君と一緒に購入した木製柄のピッケルを非常に大切にしていました。そのピッケルは錆一つ無く磨かれていて日頃の手入れの良さと彼の人柄が窺えるものでした。それと同じ位大切にしていた息子さんから送られたアルミ製ピッケルを形見として頂きましたので、彼の分身として大切に使うつもりです。

ワンゲル部に同じ化学工学科から３名入部しましたが、お互い授業で会うよりクラブ部室で会う方が多かった記憶が残っています。彼はニヒルでダンディーでクラブの女性達の憧れで、山頂で煙草を美味そうに吸う姿にシビれた後輩も多かったのではと多少の嫉妬心を持って眺めていました。その姿は亡くなるまで全く変らなかった様でした。彼との山行の思い出は、何故か天候に恵まれず、雨の中を黙々と歩いた記憶ばかり強く残っています。お互いが「雨男」で有ったのかもしれません。

新人の夏合宿の東北地方北上コース「雫石～酸ヶ湯」では２週間の合宿中休養日の２・３日間だけ晴れて、行動中は雨か霧でした。その上、十和田湖の北では霧の中遭難碑に導かれる恐怖も体験しました。　２年の夏「南アルプス南部縦走ＰＷ」では出発日が台風で、前半は雨・霧中の山行。上河内岳では落雷に会って、他のメンバーがビックリして地面に伏せたのに、何故か彼だけボケッと突っ立っていました。卒業後二人で行った「白馬岳～蓮華温泉」も霧の中でしたが、素晴らしいコマクサの群落を楽しみました。同期で出掛けた９７年の「恵那山」では小雨・霧で眺望ゼロでした。そうは言っても、彼がリーダーとして計画・実施した３年の夏合宿「野反湖～白砂山～佐武流山～苗場山～巻機山」縦走では、前半の藪コギ・テン場と水場探し苦労の中、合宿を成功させる素晴らしい指導力も発揮しました。

私個人としては、彼が家庭教師のバイトを紹介してくれたお陰で４年間クラブ活動が続けられたので、非常に感謝しております。卒業後、彼とは岐阜・横浜と離れていて会う機会も多く無く、そんなにお互い意識していなかったのですが、亡くなられた後は心の中に空洞が出来たように感じています。独身時代の彼の寮を尋ね「おじゃま虫」状態で英子さんと３人で奈良・京都に旅行した事もつい昨日の様に思い出されました。暖かくなりアカヤシオの花が咲く時期が来たら、彼が好きだった岐阜の「納古山」にお墓参りを兼ねて登る事を英子さんから誘われています。

２００１年9 期新年会

三浦正継君の早過ぎる旅立ちを悼み、ご冥福を心からお祈り致します。皆さんもお体をくれぐれも大切に。以下に、同期の消息を簡単に述べます。

上原君は2000年に「日本百名山」登頂を達成し、日頃の感謝を込めて(?)記念のテレカを配布、その後八ヶ岳に籠もる準備中。優子さんは学校の仕事が忙しいのですが、百山目の「四阿山」を夫婦で記念登山しました。

三浦煌太郎君は邦子さんと高山植物鑑賞の山行をしています。何故か天候に恵まれず昨夏の「夕張岳」も雨の中でした。松川君は和歌山の月例山行会に夫婦で参加しています。一村君は高松在住ですが、本格的登山を今も続けていて冬の剣・立山等で正月を過ごしています。木下君は富士山麓に長く単身赴任中ですが、機会を見つけて山行を続けています。梶野（尾崎）さんは最近夫婦で低山巡りを始めました。寺本君は約２０回の転勤を繰り返し最後(?)の転勤で奈良に初めて単身赴任中。天笠君は東戸塚に、朝倉君は川越に、塚本君は甲府郊外に、山縣君は小田原に、近藤君は加古川にそれぞれ落ち着いてしまい山行とはとんとご無沙汰状態。鈴木君はポルトガルに赴任して約４年経過。ヨーロッパ生活（旅行とワイン）を多いにエンジョイしています。私は、年数回の山行を自分のペースで楽しんでいます。

今秋、八ヶ岳周辺で「９期追悼山行」を計画しています。

２００３年2月２８日

期別便り(3 期) ・最近の素敵な出会いあれこれ

３期　井上　肇

その昔、3 期が現役だった時、突然、「運転手、運転を間違えてる」と叫んだ男がいた。当時の中央線はスイッチバックの駅がいくつかあった。そんな駅に止まった列車が次の駅に向かうには、一旦バックして本線に出なければならなかった。山からの帰りで眠りこけていた御仁が、動き出した衝撃で目が覚めて、その動きに慌てての発言だったのだが。そんな彼も途中でワンゲルを辞めてしまい、今はどうしていることやら。

3 期はシニア OB の中では、マイペースの人達の期と言えるのではないかと思う。シニアの月例山行に行く人から、音なしの構えでいる人まで、マイペースでほとんど周りの人に干渉しない。だから参加したい人だけが皆さんと顔を会わせている。

そんな 3 期の中で、ワンゲルを途中下車した一人が、音なしの世界から 40 年振りに声を上げ昨年 OB 会に加入した。吉村君である。今や元気にシニアの月例山行などに参加している。

月例山行と言えば、後輩から鬼塚さんと呼ばれている人がいる。第 1 回より 1 回も欠かさずに参加している腰塚君である。唯一人連続記録を更新中なので、敬意を表してこんな呼ばれ方をしているらしい。

月例山行に積極参加している人に塩谷さんがいる。昨年は全部に参加した。彼女とのメールのやり取りは楽しい。素敵な写真が添付されてくるからだ。今回、松島の初日の出の写真が「エイヤーッ」と届いた。

『お正月のおせち料理を精を出して作り続けて三十数年、子供も成人し、食べてもらえる機会もだんだん減りはじめました。その減り方も私の気力と正比例、細々細々。

ついに、あれほど熱を入れたこだわりのおせち料理を見捨て？どう思いついたのか、31 日から 1 日にかけて、夜行日帰りのバスパック「初日の出、塩釜港」に、エイヤーッと気力を振り絞り参加しました。

＜出かける気力がなくなったらさびしいな！＞の思いが動機でした。全国的に初日の出は無理という予報がはずれ、つかの間の初日の出にお目にかかることができました。

「しんどかったが、行って良かった」お正月の準備はおろそかになりましたが、何かいつものお正月より、豊かな気分にひたることができました。

『今年もエイヤーッの気持ちでがんばりたいと思います。』

マイペースの典型の一人に平林君がいる。百名山踏破の報に刺激されて 145 あるという秘湯めぐりに挑戦中である。しかも奥さんと二人連れで。

月例にはなかなか行けないけれど、親善大使をした人もいる。森井さんだ。

『昨年 7 月バルト三国のひとつ、ラトビアに出かけました。首都リーガの大学とダウガウピルスの学校でジャパンディが行われ、6 人のチームで日本文化の紹介に参加しました。私はお茶と生け花の紹介をして来ました。そして、素晴らしい人達と文化とに出会って、カルチャーショックを受けてきました。

かく言う井上も月例は失礼ばかりしている。その代わり、一人旅をしている。

年明けて播州赤穂に行った。姫路で途中下車したら、折しも NHK で放送しているとあって、武蔵ブームだった。姫路武蔵館が開設されていたり、姫路城では武蔵が幽閉されていたという「開かずの間」が特別公開されていたり、御当地だったとは訪れて初めて知った。赤穂では大石家の庭園を残す大石神社や浅野家の菩提寺である花岳寺を覗いてきた。

そして 2 月。奥州平泉に行く途中で一関に寄った。そこはかって城があり、一関藩田村家が居城していた。なんと、殿中松の廊下で刃傷に及んだ浅野内匠頭長矩が預けられたのが、この田村家だったとは。これも町を歩いて初めて知った。途中下車の旅には、不思議なめぐり合わせがあると感じている昨今である。

１３期だより

13 期　海保　茂道

大学紛争でロックアウトされた大学校舎。昭和 44 年入学のわれら１３期は，あの東大・教育大が紛争で入学試験を行えなかった時の入学です。入学式もなく授業もなく，そういえば卒業式もなかったなあ。同じ科の仲間で集まっているとオルグに来るのは貫禄十分な中核のお姉さま。その人はワンゲルの里派と呼ばれる人だったようですが…。１２月頃まで授業がなく，ワンゲルの活動もなかったため新人合宿もなく，弱体などと言われた１３期でした。大学時代は清水ヶ丘の部室に入りびたりの毎日。時には喫茶店に行ったりして長い時間しゃべっていたものです。何を話していたのでしょうか今考えると不思議なものです。そういえば山のテントの中でも話したり歌をみんなで歌ったりの集団生活，今時の若者には考えられないでしょうね。今の若きワンゲル部員はテントの中で何をやっているのでしょうか。

そんな大学時代をすごした１３期ですが，今はちょうど忙しい時期なのでしょう。総会や OB 山行，雪下ろしにも参加せず OB 会では影の薄い期です。それでは，近況報告を…と言っても１９９９年に本当に久しぶりに集まってもう３年が経ちましたので近況ではないのですが。

よく山に登っているのは，村松氏。奥さん（旧姓　桜井さん）との山行の写真が載った年賀状を毎年いた

だきます。高校教師の太田氏は以前高校山岳部の顧問として現役バリバリでしたが今や引退。ときどき登る程度でしょうか。吉里氏はいまだに青年をやっています。３年前に会ったときも大学時代と変わらぬジーパンスタイルに驚いたものです。竹村氏は大学時代から大物振りを発揮していましたが，そのままの重役様で本当に偉そうな感じでした。中村友二氏は変わらぬ独特の雰囲気，話し方，スタイル。変わったのは寂しくなった頭部のみでしょうか。基本的には，卒業から３０年近く経つのに変わらない面々でした。そして，紅一点の小沢嬢，そして赤松氏は世界のどこかで活躍していることでしょう。連絡が取れませんので，ご存知の方は教えてください。　最後に好き勝手に書いている海保です。山に登ることもなく，趣味はクラシック音楽鑑賞とお寺めぐり。温泉も美味い酒もいいですね。

３年前に久しぶりに会ったときに，話が盛り上がり今度は近隣の期と合同でやろうと言うことになりましたが未だに実現しておりません。声がかかりましたら嫌がらずにつきあってあげてください。

2002 年シニア月例山行会報告

シニア月例山行会委員長　2 期　塚原伸一郎

シニア月例山行は 1999 年 1 月に始まり、今年 2002 年で丸 4 年、数えて 44 回計画されました。そのうち雨天中止が 4 回ありましたので、実施は 40 回です。2002 年は鎌倉という参加しやすいコースがあったり、OB 会との合同開催や、ユシロ TC の参加などがあり参加者が大幅に増えた年でした。

1 月[鎌倉・源氏山公園から長谷寺]

・空前の 47 名が参加しました。あまりの大人数なので、道中は期ごとに分かれて歩きました。

2 月[奥多摩・浅間尾根]　・雪を踏んで真冬の奥多摩を味わいました。

3 月[精進湖・パノラマ台]

・好天に恵まれ 42 名という史上第 3 位の参加者でした。精進湖からの富士山の眺めは抜群でした。

・2 年前に亡くなった 7 期故下村弘道氏の 3 回忌に当り、頂上にて黙祷、山の子の歌、みはるかすを合唱し、故人を偲びました。

4 月[桐生・吾妻山]　・生憎の雨で 1 日中傘をさして歩きました。

5 月[甘利山・千頭星山]　・快晴でさわやかな登山日和でした。残雪の鳳凰三山が目の前に聳えていました。

・名物レンゲツツジは少し早かったですが、アケボノスミレ、ミツバツツジ等春の花が目を楽しませてくれました。

6 月[日光・白根山]

・月例山行初めての貸切バスによる前夜発半泊日帰りで東北の最高峰を訪れました。

・OB 会若手 6 名、ユシロ TC の 4 名を加え計 43 名という史上第 2 位の参加者でした。

・シラネアオイは見つかりませんでしたが、コイワカガミ、オオバキスミレ、バイカオウレン、アカモノ、ミネザクラ等草花を楽しみました。

7 月[谷川岳]

・天気が良くて暑い上、最高の人出で登山道が渋滞し苦労しました。

・さすがに真夏の谷川岳、クガイソウ、ヤマブキショウマ、シモツケソウ、ホタルブクロ、ツリガネニンジン、ヨツバヒヨドリ等の高山植物が咲き乱れていました。

8月[那須・茶臼岳]　・第5回OB山行と合同で開催されました。貸切バスによる日帰りです。

・雨も止み、名物の風もなく、無限地獄のガスに驚かされながら茶臼岳を楽しみました。

9月[伊吹山],10月[西沢渓谷]　・いずれも雨のため中止

12月[鎌倉・衣張山]・杉本寺から報国寺、旧華頂宮を経て、衣張山で昼食。名越の切り通し、法性寺、岩殿寺から逗子へと変化に富んだ、見どころのあるいいコースでした。

★年度別実施状況[参加者数]

年	実施回数(回)	参加者(人)	1回当り(人)
99年	10	238	23.8
00年	11	304	27.6
01年	10	317	31.7
02年	9	340	37.8
計	40	1,199	30.0

*01年3月茅が岳の参加者を24から35名に訂正

[企画賞]

年	月	コース	幹事
00年	12月	石割山	7期小林
01年	6月	尾瀬ヶ原	4期斎藤
01年	11月	大菩薩嶺	2期塚原
02年	5月	甘利山	7期小林

[参加者数ベストテン]

順位	コース	年月	幹事	参加者(人)
1	鎌倉・源氏山公園	02年　1月	3期江崎	47
2	大菩薩嶺	01年11月	2期塚原	43
2	日光・白根山	02年　6月	8期池原	43
4	パノラマ台	02年　3月	5期亀井	42
4	甘利山、千頭星山	02年　5月	7期小林	42
6	石割山	00年12月	7期小林	39
7	尾瀬ヶ原	01年　6月	4期斎藤	38
7	吾妻山	02年　4月	6期岡田	38
9	今倉山、二十六夜山	01年　4月	3期腰塚	37
9	那須・茶臼岳	02年　8月	2期塚原	37

★2002年実施状況

[月別実施状況]

月	コース	天候	幹事	参加者(人)	初参加者他
1月	鎌倉・源氏山公園	△	3期江崎	47	(初)岩上、斎藤（2）、渡辺（3）、坪（7）
2月	浅間尾根	○	4期斎藤	26	
3月	パノラマ台	○	5期亀井	42	
4月	吾妻山	×	6期岡田	38	
5月	甘利山、千頭星山	○	7期小林	42	
6月	日光・白根山	×	8期池原	43	前夜発半泊
7月	谷川岳	○	1期吉田	29	
8月	那須・茶臼岳	△	2期塚原	37	(初)吉村（3）、第5回OB山行と合同
9月	伊吹山	×	3期腰塚	中止	関西支部と合同
10月	西沢渓谷	×	4期斎藤	中止	
12月	鎌倉・衣張山	△	5期亀井	36	
				340	1回当り　37.8

[2002 年皆勤賞]

期	氏　名	
3期	腰塚　典明	4年連続
2期	吉野大次郎	3年連続
2期	北見美智子	初受賞
3期	塩谷佐紀子	初受賞
7期	林　　誠一	初受賞
7期	古宮智津子	初受賞

[30 回参加賞]（新設）

期	氏　名	通算回数
3期	腰塚　典明	40
2期	吉野大次郎	38
1期	吉田　輝義	31
2期	塚原伸一郎	31
2期	北見美智子	31

「幽霊公主考」

34 期 上山なつき（親跡 冬樹）

宮崎駿が下馬評通り、第七十五回アカデミー賞を受賞した。もっとも、たとえ「千と千尋の神隠し」が長編アニメーション賞を逃していたとしても、もはや米国での彼の影響力は無視できまい。恐竜映画で翼手竜が海面を飛翔する場面、スーパーヒーローがビルの谷間をわたる場面、等々。これほど米国の映画人に影響を与えたのは、恐らくクロサワ以来であろう。

宮崎作品の中で私的にお気に入りなのは「もののけ姫」である。舞台は中世の日本。エミシの血を引く少年アシタカは、イノシシの変化（へんげ）した“タタリ神”を殺したため、死に至る呪いをかけられてしまう。呪いを断ち切るべく旅立った彼は、やがて生と死を司る“シシ神”と、その座である森を巡る人と山の神の争いに巻き込まれながら、山犬に育てられた少女サンに惹かれていくのだった、というのがおおまかなストーリー。

物語の主題となるのは、“森と人との戦い”である。片や人間の側は鉄を生産するため、燃料となる樹木を大量伐採する。これに対して、人間を憎悪する山の神（全長十数メートルに達するイノシシや山犬）が敵手となって襲いかかる。環境破壊と人間への影響の象徴であろう。だが劇中では、自然と人間との共生といった心地よい解決策は提示されない。鉄の生産によって生活水準の向上した人間たちにとって、自然を保護して生活水準を下げることなど問題外。生存圏を奪われる山の神たちにも、人間との間に共存の余地などないのだ。そして山の神たちには、人間の銃火器、爆薬による殺戮が用意されている。

しかし、環境問題を扱っているからお気に入り、というわけではない。それならば、他に優れたドキュメンタリーがいくらでもあろう。私が惹かれる理由は、登場人物の描き方である。

主人公アシタカは、呪いを受けて緩慢に死に向かいつつあるが、人間離れした怪力を発揮できるようになったという設定だ。射た矢は相手の首をはね飛ばし、十人がかりで開けられる門を片手でこじ開けられる。しかしながら物語を追っていくと、実はこの主人公、いてもいなくても大勢に影響ないのだ。例えば、本来最大のスペクタクルとなったであろう人と山の神の決戦時、彼はその場にいないのである。

そういえば、主人公の活躍を云々する以前に“外している”と思えるストーリーではあるが。例えば決戦は回想シーンでしか描かれず、山の神が敗走していく場面がメインなのだ。宮崎アニメのファンはドンパチが好きな向きばかりではないから、広いニーズに応えようとしたということかも知れないが。

閑話休題。この主人公は平和的な人では、という意見もあろう。確かに人間と山の神の争いを憂えたアシタカは、これを制止しようとする。しかし、彼の美辞麗句は最期まで一顧だにされない。「あいつ、どっちの味方なのだ」という厳しい見方をされてしまう。

そしてラストシーン。朝廷の命を受けた者たちが、山の神の頂点に立つシシ神の首を取る。シシ神は首を取り戻そうと暴走を始め、人間や樹木の命を吸い取っていく。アシタカはヒロインのサンと共に、奪われた神の首を取り返し、返却しようと命を賭す。せっかく盛り上がっているところだが、話を追っていくと、ふたりの行為は無益なのだ（シシ神御自ら首を取り戻せる態勢になっている）。

ひとりやふたりの人間など大勢に影響を及ぼせはしない。状況に流されるのが関の山ではないか？なにや

らそうした底意地の悪いメッセージを、私は感じ取ってしまう。
　超人的だが存在意義の薄い英雄たちの裏話的なお話を描きながら、随所で楽しませてくれる物語をつくってしまうから大した物だ・・・お気に入りの理由をまとめるとこうなるであろうか。

雪降ろし雑感

ボーイスカウト横須賀１１団隊長　助川智之

プロローグ

　午前７：00 少し前に第１駐車場に着いた。もうすでに 5、60 台の車が、リフトが動くのを待っていた。私たちボーイスカウト横須賀１１団の隊長助川とスカウト６名そして横浜でピックアップした、ワンゲル OB 笠原氏とぎゅうぎゅう詰の車の中で持参した弁当をながら、車の中から景色を眺めていた。「雪が少ないな」「締まっていて小屋入りが楽そうだな」などと話をしていた。
　7：30 頃そろそろ車の周りがあわただしくなり、ゴンドラが動き出した。「それっ」とばかりに車外に飛び出し、身支度を始めた。少年達はモタモタしながらもスーシューをザックに縛りつけた（このスノーシューは年末スキーキャンプで小屋入りに苦労したため竹で自作したもので、なかなかの出来栄えです）。
　ゴンドラに乗り込み野尻湖方面に目をやると、朝日を浴びて結氷した湖面がきらきら輝いて見え、遠い白き峰々は気高く素晴らしい景色だった。ゴンドラ山頂駅から笠原さんを先頭に J バーを目指し、途中の景色のいいところで記念撮影！

Jバーのところから森の中に入ると予想以上に行きが締まっており「これなら林道も楽勝だな」などつぶやいた。
　思った通り林道は締まっていて、スノーシューが無くともすぐにカーブミラーに着いた。ここから再度森の中へ。葉が落ちた広葉樹の森は明るく、すぐに小屋の屋根が見えた。苗名小屋は寒山にあって凛として美しく、白き大地に四肢を伸ばす様は堂々として素敵だ。

小屋にて

　9：18 分、雪囲いの小屋入り口から階段を下りるように小屋の中に入った。薄暗い小屋の中にドヤドヤと入り込み、ヘッドライトをザックから取り出し、それぞれが小屋暮らしの準備に取り掛かった。少年達はなれたもので、てきぱきと動き出した。その時笠原さんが雨戸を一枚開けた。雪明りと共に春を思わせる柔らかな日の光が、軒先まで積もった積雪の僅かな隙間から小屋の中に飛び込んできた。
一人一人の横顔がはっきり解り、彼らの吐息が白く見え、この小屋の冷たさを物語っていた。しかし凍える吐息も、陽の光も、その全てが小屋に溶け込んでいった。幾百ものきら星の如き青春をこの小屋は見てきたのだろうか、幾千もの白き吐息を包み込んできたのだろうか、そしてその全てがこの小屋の歴史なのだろう。

雪かき

　身支度を整えコタツで一休みを入れ、笠原さんより雪かきの手順と注意を聞いた。笠原さんは少年達に優しく、丁寧に教えていただいた。10：00少し前元気に外に飛び出しそれぞれの持ち場にスコップを持ち作業に取り掛かった。するすると屋根に登り雪を下ろす者、柱を掘り出す者、
スノーダンプで雪を運ぶ者、一生懸命働いた。汗をかき昼近くになって、今回のリーダーの細谷さん、小野さん、坂本さん（部外者）が到着し昼食にした。湯を沸かし、カップ麺をすすりながらストーブでパンを焼き、トーストを少年たちはパクパクよく食べた。その姿を見て随分たくましくなったな、一言も文句もいわず働いているな、この働きを保護者に見せたいな、そう思ったのです。

手の開いた者から、餅を焼き汁粉の準備とじゃが芋・人参・玉葱を切り、夕食のカレーの仕込み、ちょっと普通の少年とは違うぞ！と云う所をみせー休み。
午後の作業が始まると、少年達は夜討ち朝駆けの疲れか、動きも大分鈍くなったが、おやつに汁粉を食べ日没まで頑張った。柱3本と4側面の切り離し、屋根2面半雪降ろしでこの日の作業は終了した。大学生や大人と比較すれば戦力とはなりませんが、中学1～2年生としたら評価できるのではないかと、胸を張りたい。
ランタンに火をともし、寝床の準備、カレー作り、そしてハラペコの皆はおなかー杯カレーライスを堪能した。細谷さんも、小野さんも、笠原さんも、少年達に優しい眼差しを向けていただいた、感謝しています。苗名小屋の一番の魅力は、そこに集まる人々だと常々保護者に伝えていますが、それは間違いないことでした。
静寂の森
夕食後、少年達はチョコクッキーを食べたり、他愛も無い話に花を咲かせたりして、寝床に入った。大人はその後軽くビールで乾杯し、ゆったりと流れる時間を楽しんだ。
夜半より季節はずれの雨が、トタン屋根を叩いた。
朝起きると小雨模様で今日は停滞かと思ったが、ガスがだんだん晴れてきて少年たちが楽しみにしていたスキーが出来そうになり、急いでパッキング。最後までお手伝いできなかった事に後悔しつつ、小屋と皆に別れを告げた。
昼間ゲレンデで遊び、笠原さんと駐車場で待ち合わせ、帰路に着いた。帰りの車の中で、私たちは役に立ったのだろうか？第３次除雪隊のお手伝いもがんばってくれるだろうか…などずーっと考えていた。
声を掛けてくださった方々に感謝の気持ちでー杯です。願わくは少年達も小屋に集まる青年のようになってもらいたい。素晴らしい青春を過ごしてもらいたい、そう願ってやまない。私自身遅れてきた青年として、この小屋を楽しみたく思っています。
最後になりますが、YWVOB会の方々に心より御礼を申し上げると共に、今後ともボーイスカウトに深いご理解を賜りたく存じます。

小屋潜入～乗っ取り

横浜国大OB 松尾恵子

２月に山崎さんからメールが届いた。「小屋潜入～乗っ取り」というタイトルでＯＢ会報の原稿を書いてほしいという。や、やまさきさん…乗っ取るつもりはないんだけど……織田無道の言い訳みたいで、我ながらなんだか嘘くさい。
私と苗名小屋との出会いは７年前に遡る。ＥＳＳの友人に黒姫でパラグライダーをやろうと誘われて、連れて来られたのが苗名小屋だった。車で暗くなってから到着して、東側の扉を外からこじ開けて侵入した。ランプの下での宴会は、学生に戻ったようで楽しかった。いつでも寝られるように先に布団を敷いて、その上でおやつを食べる。酔って眠くなった人から、歯磨きもせずに布団にもぐり込んでいく。悪い子の見本のようだ。ちなみに、この時最初に布団にもぐったのは笹倉さんである。なぜ覚えているかというと、私はこの時、初対面の笹倉さんに対してとんでもなく失礼なことを言ったからである。何を言ったかは、さすがに会報には書けない。翌朝は顔も洗わずに出発してしまったので、初めての小屋の印象はこれくらいしか残っていない。その後もう１回行ったが、間もなく仕事が忙しくなったり転勤があったりして、パラグライダーもやめてしまった。
それから６年後、蓼科山で「宇宙人と深海魚に遭遇」した。笹倉さんと藤井くんを一度に並べて見た時のカルチャーショックを文字にすると、こういう表現になる。２人ともずっと以前から知り合いなのだが、片方はパラ軍団、もう片方は経済学部＆ＥＳＳつながりなので、私の頭の中ではそれぞれ異次元の生物だった。この時には小野さん（彼女とはゼミが同じ）もいて、私は旅行の間ずっと、なぜこの３人が一緒にいるのだ

～と言い続けていた気がする。とにかく楽しい登山だった。この頃から、山はいいなと思うようになった。

そして昨年の秋、７年ぶりに苗名小屋を訪れることになった。そもそも７年前の記憶があまり無いのだが、こんなに快適な小屋だったっけ？というのが最初の印象である。後から知ったのだが、私が訪問したのは、ちょうど一通りのＤＩＹが終わった時期だったらしい。仕組まれた罠とでも言おうか、そうとは知らずにその快適さにすっかりハマってしまった。そういえば、ここ３年間、笹倉さんはパラ仲間に「仙人」と呼ばれていた。いつも山にこもっていて、東京で飲み会をやるからと誘っても出てこないからである。こんなことをしていたのか。

苗名小屋に惹かれる理由は、物理的な快適さだけではないと思う。小屋へ行くと、職場の上司くらいの年齢の「おじさま」達がいる。私は普段、そういう年齢の人が集まる場所へは顔を出さないことにしている。人を助けてくれるわけでもないのにエラそうにお説教ばかりたれて、一緒にいて疲れるからである。ところが、小屋ではそういう疲れを感じたことがない。自由な雰囲気というか、やりたい人は自力でやる、そうでない人はそれなりに、それでいながら皆が全く自分勝手に振る舞っているわけでもない、そんな居心地のよさがある。

ただの同好会なのに。この絶妙なバランスと世代を超えた求心力は、どこから生まれて来るのだろうか。それが山小屋の不思議なところなのかもしれない。

そういえば、先日の雪下ろしの時に、ジャージの「オヤジ」が雪山でザックを背負ってスキーを履くと「おじさま」に見えるという驚愕の発見があった。おじさまのポケットからは昔懐かしの黒糖アメが出てきたりするのだが、これがまたブランドもののチョコレートなんかよりはるかにおいしい。雪山のマジックとでも言おうか。

春になったら、小屋の辺りに山桜や水芭蕉が咲くらしい。次は花見かな。いや、その前にもう一度スキーに行きたい。

4. 苗名小屋

年越し小屋 12/28(土)～1/2(木)

46 期　塩野貴之

参加者　現役　志賀(44 期)・野島(44 期)・塩野(46 期)・佐久間(46 期)・アンディ(46 期)
　　OB　笹倉(30 期)・田村(34 期)・後藤(39 期)・山崎(39 期)・覚田(40 期)・石川(41 期)
　　部外　櫻井・後藤(弟)・ボーイスカウト横須賀 11 団 12 名？

年越し小屋は参加者を見てもわかる通り、非常に賑やかであった。ボーイスカウトの子供達が 28 日から 30 日まで滞在し、小屋とスキーを満喫していた。初日の小屋入りにはゲレンデから小屋まで４時間以上を要するという苦難もあったらしいが。そして現役・OB ともども毎日、朝から日暮れまでゲレンデスキーを楽しんだ。吹雪かれたのは 1/2 の午前中のみで総じてスキー日和が続いた。

2002 年最後の食事は氷点下 10 度で雪が降り続く中、バーベキューをして非常に楽しかった。紅白を聞きながら酒を嗜み、年越し蕎麦を食べて新年の声を聞き、翌朝、初日の出に燃える妙高連峰を仰ぎ見て誰よりも早い初滑りを楽しみ、社に新年の幸運を祈願し、元旦の朝からケーキに舌鼓を打ち、快晴のゲレンデでスキーを満喫した。楽しさにおいては、数多い世界の人々の中でも有数の年越しであったと思う。

個人的なことを記すと僕と佐久間君は人生における初スキーであった。初めから重い荷物を背負ってのスキーは少々無理があったようで、リフトから降りた直後に雪の塊に突っ込み、高速リフトの降車では転んでリフトに頭をぶつけ、初めの 500mを滑るのに 10 回以上転んで一時間あまりかかり、その後もボーダーに突っ込み、コースアウトを繰り返し、コース外の林を滑り落ち、木にぶつかり、板が行方不明になり、等々二人とも様々なことがあったが、初日の初めから一番上まで連れて行かされ、先輩方の優しい指導で中級者コースを無理やり滑らされたのが良かったのか、5 日後にはほとんど転ぶことがなくなった。特に佐久間君の直下降は他を圧する迫力が出てきた。ちなみにアンディのスキーの腕前は相当なもので、転びまくる僕達を憐れみの目で見ていた。ともかく計 74 回、リフトとゴンドラに乗った 5 日間はとても楽しかった。もちろん、小屋の夜も。

第一回雪下ろし 1/17(金)～19 日(日)

４６期　塩野貴之

参加者　現役５名 17～19 日…志賀・野島・杉浦(44 期)、塩野・佐久間(46 期)
OB６名 18～19 日…池原(8 期)、安藤(11 期)、鈴木・小口(14 期)、笹倉(30 期)・松尾(33 期 D)

現役 5 名はセンター試験休みを利用し、金曜日の早朝に新幹線で出発して、一滑りしたのち小屋入りをする。ＯＢの方々は 18 日の午後 2 時から 3 時にかけて小屋入りされた。積雪は２ｍ２０ｃｍほど、3 日間の天気は 17 日晩の 10ｃｍほどの新たな積雪と、18 日に濃いガスが発生したくらいでまずまずの天候であった。ただし気温が低めで、ストーブを焚いても屋根の雪が自然落下したのは南側の一部分のみであった。

17 日の小屋入り後、すぐに屋根の雪下ろしとスノーダンプ道作りを始め、翌日のＯＢ到着までに屋根 5 分の 3 程度、柱 2 本、小屋周り 5 分の 2 程度を除雪した。皆、何かに憑かれたように作業していた。屋根の表面はスノーダンプで落とすのがかなり効果的であった。ＯＢの方々がスノーダンプをさらに 2 台持ってきてくれ、スノーダンプ全 6 台がフル稼働し、非常に役立った。11 人で作業し始めてからはピッチも上がり、18 日夕刻までに屋根と柱の雪全てと、雨戸の前を除雪し終わった。19 日は残る 3 方向の除雪と造林小屋の屋根の除雪に取り掛かり、昼に全てをやり終え解散の運びとなり、日暮れまで各々スキーを楽しんだ。

初めての雪下ろしであったが、第一回が実は一番大変らしかった。特に底の方の雪は圧雪され硬く、手首が痛くなった。しかし、関東出身の僕にとって雪下ろしは新鮮な体験で楽しめた。また 18 日晩は大晦日に続いて肉 5 キロのバーベキューをやり、楽しんだ。

野島先輩は雪下ろし中、体調が悪くお粥以外のものを食べられなかったが、それをおして作業してくれた。そして肥塚さんは残念ながら参加できなかったが、東京駅まで 5 つの手作り弁当を抱えて見送りに来てくれた。

初めての雪下ろしで段取りが良くわかっておらず、皆さんに迷惑をかけましたが、皆さんのおかげで無事終了する事ができました。ありがとうございました。

第2回雪下ろし

38期　細谷　慎一

【期間】平成１５年２月８日（土）～２月１１日（火）
【参加者】合計13名　2月8日昼～2月11日朝・・・細谷（38期）、小野（34期）、坂本（部外）
2月10日夕～2月11日朝・・・田中（34期）
2月9日昼～2月11日朝・・・村山（34期）

2月8日朝～2月9日昼・・・笠原（41期）
2月8日朝～2月9日朝・・・横須賀ボーイスカウト１１団
（助川智之・板垣尚吾・助川勇希・生田裕・山本悠太・中園峻二、他1名）

２月８日の朝１０時ごろから、横須賀ボーイ団と笠原らが屋根と柱を始めとして、雪降ろし作業開始しました。午前中までに屋根の一部と柱１本程度終了しました。昼頃に細谷、小野、坂本が小屋着。夕方までに柱３本終了、玄関側と広場側の半分終了、屋根の一部終了。ちなみに夕飯は、ボーイ団が作ってくれたカレー。食べ盛りの中学生もいて賑やかにそしておいしくいただきました。

２月９日は、未明から早朝にかけて雨が降った。昨晩から早朝にかけて小屋の屋根の雪がすべて落ちた。その原因として雨が降ったこと、気温が高かったこと、小屋をいつものように中から温めたこと等によるものと思われる。この日は朝からガスがかかり、小屋周辺はとても神秘的な雰囲気でした。８：３０から屋根から落ちた雪を取り除く作業にかかりました。屋根にあった雪が多かったため、落ちた雪のうち小屋の壁側に流れ込んだ雪から取り除いた。ボーイ団は朝食後１０時ごろに下山（スキーをするとのこと）。笠原は昼まで作業後、下山（ボーイ団と合流して帰宅）。１５時ごろに村山が小屋着。夕方までに、屋根と柱４本と広場側壁と倉庫側壁終了、玄関側壁ほぼ終了しました。4人で作業するとやっぱり大変で、みんなくたびれていました。夕飯はおでんとうどん。

２月１０日は、午前中に倉庫側の除雪した雪を小屋の遠くへ運ぶ作業と玄関側壁の除雪作業。スノーダンプを使ってどんどん遠くへ雪を運びました。午後は、休憩して各自過ごしました。小野、村山はゲレンデスキーへ。細谷は、スノーシューをはいて小屋周辺散策へ。坂本は、ドラム缶風呂を沸かしていました。夕方、田中小屋着。山側壁の雪降ろし作業を行った。その日の夜は、小屋に残っていたレトルトカレーを食べました。一冬越したカレーはパサパサしておいしくなかった。デザートは小野さんがサンアントンで買ってきてくれたチョコレートケーキ。おいしかった。ちなみにドラム缶風呂には坂本、田中が入浴しました。厳冬期にドラム缶風呂に入った人数の記録として小屋ギネスに記載しました。

２月１１日は朝食後、小屋内を片付けて、全員（田中、村山、小野、坂本、細谷）下山。苗名の湯で入浴後、妙高駅前の「やおとく」で食事をして解散しました。

まとめとして積雪量は、平年並であったが1月に実施した雪降ろしの跡があったため、作業しやすく特に柱は掘りやすかった。除雪作業は、山側壁の雪以外ほぼ終了した。作業期間中は気温が高めで雪質は粗目でした。したがって、雪は重かったが掘りやすかったためスコップが壊れるような作業はありませんでした。作業初日は、１０人程度の作業人数であったがその他は３-４人で雪降ろし作業であった。雪降ろし経験のある人１０人程度で行えば一人当たりにかかる負担が軽減できるが、小人数でできる範囲で最大限作業した。今回の小屋は、前半にぎやかに後半静かにと対照的な小屋でした。

第３ 回雪下ろし

44 期　志賀　圭

参加者(敬称略)：池原（８）、笹倉(30)、山崎(39)、石川(41)、櫻井(部外)、志賀・野島(44)、肥塚(46)、ボーイスカウト隊(川名兄弟、青山)

第 3 回の雪下しは 2 月の 22 日～23 日にかけて行われました。石川さん、山崎さん、ボーイ隊と現役は車で早朝に妙高高原に到着しました。五八木荘に挨拶をした後、先輩方と、子供達はゴンドラで小屋へ、現役はリフトで妙高食堂とサンアントンに立ち寄って挨拶をした後に、少し遅れて小屋入りとなりました。私達が着いた頃には、子供達が雪かきを始めていました。中 2、と小 6 の子供達には、つらい作業だったでしょう。

ただ、幸いにも屋根の雪は多くなかったので、そのままにして、小屋周りの雪かき、並びに柱の掘り出しを行いました。昼食が終わった頃には、櫻井さん、笹倉さんも到着されました。午後はペースを上げてせっ

せと雪かきに励みました。笹倉さん、石川さんと私の 3 人は、五八木造林小屋の屋根の雪下しに取り掛かりました。造林小屋は前回の雪下しでは手付かずになっていたので、結構な雪があったのですが、3 人でスノーダンプを用いて、雪下しを始めたら、以外にも早く終了することが出来ました。

早くも 4 時頃には、雪下しは終了となり、子供達には外で遊んでくるように石川さんが諭した後、我々は雪に埋めてキンキンに冷やしておいたビールで乾杯となりました。5 時にはボーイスカウト特製のカレーも完成し、同僚の方とスキーを楽しまれた後に到着された池原さんも交えて皆で乾杯をやり直してから、夕食となりました。カレーライスはボーリュームたっぷりで、あっという間におなかいっぱいになりました。

その後は、山崎さん持込のビールサーバーも登場し、楽しい宴会になりました。途中で、小屋の *Do It Yourself* についてのミーティングが開かれ、今後の具体的な作業予定について話し合いました。子供達は一足先に寝床に入り、残ったメンバーは、酒を飲みつつ、まったりと充実した時間を過ごしました。

翌朝は、6 時起きで朝食を食べた後、朝一番からスキーを楽しみました。濃いガスに包まれ景色は何も見えませんでした。石川さん、山崎さんと子供達は午前中滑って、車で帰路に着きました。池原さん、笹倉さん、櫻井さんは風呂に入り、午後、スキーをした後、解散。残った現役は、もう一日小屋にて、発電機を使わず、ランタンの暖かい炎の下で、初小屋の肥塚、それと野島、私の 3 人で語り合いました。翌日、肥塚は小屋にあった日本酒を飲んどけば良かったと後悔していました。24 日もガスがかかっていましたが丸一日滑って帰りました。

第４ 回雪下ろし

22 期　津江真行

【日時】3 月１～2 日

作業内容と当時の現況について簡単に報告します。

3 月 1 日（土）天候くもりのち雨、深夜は嵐。苗名小屋へは、昼過ぎに入りました。雪は少ないと思っていましたが、想像以上に積もっていました。入室後、弁当を食って、午後 1 時過ぎより午後 5 時過ぎまで作業を行いました。作業内容は以下のとおりです。

①屋根に積もった雪（40 センチ程度）を、はしごを掛けておとしました。

②雨戸側の側面に幅１メートル位の空間が出来るように、雪上げを行いました。

②の作業に時間が掛かりましが、何とか空間が出来ました。夜は、入り口部分に雪覆い（大変感激しました）のある快適な小屋で、おでんをおかずに夕飯としました。２１期の横溝さんからの差し入れで買った久保田の１升瓶でちびりちびりやりながら、２２期の寺島、２３期加藤、２４期の岡田とゆっくりした時間を過ごしました。夜は雨から雪に変わったようで、外はふぶいていました。

３月２日（日）天候は快晴、但し風強し。一晩で新雪が３０センチ以上積もりましたが、前日に作業した雨戸がわの空間は確保されていました。朝点検と、入り口部分の整備を行い、帰路に着きました。

ゲレンデは、妙高山がきれいに見えましたが、リフト・ゴンドラは止まっていたので、殆ど人のいないゲレンデを中腹のサンアントンまで、降り、そこで昼食を食って、下までおり、温泉に入って帰りました。五八木のおじさんも元気そうで安心しました（お土産持参しました）。23 期の加藤は貸しスキーを 2 日で 500 円で借りて得をしましたが、帰ったらどうも転勤の辞令が出たようです。

確かに雪はこの時期ですが、結構一晩で積もります。今日の時点でどの位か検討がつきませんが、あれからそこそこに積もっているものと思われます。今年で 3 年続けましたので、来年もかみさんの理解を得て参加したいと思います。

5. 第7回OB山行、第49回シニア月例山行のお知らせ

ＯＢ山行委員長　　小野恵美子（３４期）

次回ＯＢ山行はシニアＯＢの月例山行と合同にさせていただき、以下のように予定しています。
行き帰り貸切りバスで快適です。大勢で楽しく初夏の山歩きを楽しみましょう。ぜひご参加ください。

〔日時〕　2003 年 5 月 24 日(土)
〔行先〕　榛名山（天神峠～相馬山）　1411m　二百名山
〔地図〕　昭文社山と高原地図「20 赤城・皇海・筑波」
〔集合〕　新宿駅西口安田生命ビル角　7:15
〔交通〕　貸切バス(大型正座席 45 人)
〔コース〕　新宿 7：30＝＝＝渋川伊香保 IC＝＝＝榛名湖畔 P10：00----天神峠----相馬山----ヤセオネ峠 14：30＝＝＝伊香保温泉又は渋川温泉 15：30-16：30＝＝＝渋川伊香保 IC＝＝＝新宿 19：00～20：00（歩程：約 3 時間 30 分、標高差：321m）
〔帰着〕　新宿駅西口安田生命ビル角　19:00:～20:00
〔参加費〕　5,000 円（バス代、入浴代、参加費）
〔持ち物〕　昼食、水、おやつ、雨具、その他登山に必要な物
〔温泉〕　伊香保温泉「石段の湯」または渋川日帰り温泉「スカイテルメ渋川」
〔見どころ〕　白根火山、関東甲信越の大展望とヤマツツジ、レンゲツツジ
〔その他〕　雨天決行
〔申込み〕　参加ご希望の方は 5 月 10 日ごろまでに下記のいずれかにご連絡ください。
小野恵美子（34 期）　電話　042－335－7251
メール　emiko150@nifty.com
安藤貞利　（11 期・第 7 回ＯＢ山行幹事）
メール　saando@nifty.com

・シニア OB は通常どおり、各期委員を通じて塚原委員長宛お申込みください。

6.　総務委員会からのお知らせ

２００３年度活動計画

月	OB 会活動予定	現役活動予定
3月		春合宿　3/24～30　阿蘇・祖母・九重
4月		新歓１次W　4/27or29　奥多摩
5月	OB 山行	新歓２次W　　5/中　日帰り　丹沢
6月		新錬１次+小屋　5/30～6/1　苗名小屋近辺の山
7月		新錬２次(ボッカ)　6/28･29　女峰山？
8月	会報 24 号発行、OB 山行	夏合宿　8/上　北アルプス
9月	リフレッシュ苗名小屋２００３　9/中旬～10 月初旬	
１０月		秋１次合宿　10/11～13　未定
１１月	OB 総会 11/8～9 五八木荘	秋２次合宿　11/22～24　未定
１２月		追いコン　12/上　水無寮

2003 年シニア月例山行・集い予定

１月 25 日	(奥多摩)	御岳山	７月 26 日	(箱　根)	丸岳
２月 22 日	(常　磐)	筑波山	８月 20 日	(奥秩父)	金峰山
３月 29 日	(三浦半島)	大楠山	９月 27 日	(奥武蔵)	武甲山
４月 20 日	(中央沿線)	石老山	10 月 25 日	(奥秩父)	西沢渓谷
５月 24 日	(上　毛)	榛名山	11 月 15-16 日	(足　柄)	いこいの村
６月 28 日	(浅間周辺)	鼻曲山	12 月 21 日	(丹沢前衛)	仏果山

～原稿募集のお知らせ～

山行や同期会の話題、そのほか何でも結構ですので、会報に掲載する原稿を募集しています。
投稿やお問い合わせは、下記編集担当まで、お願いいたします。

田村顕洋(34 期) a-tamura@mbg.sphere.ne.jp、山崎美穂(39 期)　mihho@qf6.so-net.ne.jp

YWVOB 会会報第 23 号
発　　行:横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発　行　日:2003 年 3 月 30 日
発行責任者:嘉納 秀明(1)
編集責任者:編集副委員長 山崎 美穂(39)
編 集 担 当:YWV OB 会 編集委員会
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。